

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	有馬伊津子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	季節感を大切にしながら言葉(日本語)の面白さについて考えます。また、コミュニケーションについても学びます。	
到達目標	言葉(日本語)の面白さについて自ら考えようとする。医療面接につながるコミュニケーション能力の向上を図ること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	1、オリエンテーション① 人文科学概論で学習すること	1
	2、オリエンテーション② 自己紹介	1
	3、視覚障害者の活躍	4
	4、百人一首	3
	5、季節の言葉	2
	6、日本語の不思議発見	2
	7、前期学習のまとめ	1
	8、前期試験の振り返りと創作作品発表	1
	後期計 (15週)	後期計 15時間
1、オリエンテーション① 後期の人文科学概論で学習すること	1	
2、オリエンテーション② 自己の振り返り	1	
3、視覚障害者の活躍(その2)	2	
4、百人一首	2	
5、季節の言葉	1	
6、ビジネスマナー	2	
7、敬語	2	
8、医療面接入門	2	
9、後期学習のまとめ	1	
10、後期試験の振り返りと創作作品発表	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	筆記試験(前期・後期)、授業で課した課題・創作を総合して評価します。	
履修上の留意点	年間に2回以上俳句・川柳の創作作品の提出を求めます。	
自己学習の進め方	毎回の授業をしっかりと聞き、要点を自分で整理してみてください。分からないことがあれば、質問してください。常に、身の回りの言葉に関心を持ってください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	村上初枝	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会福祉に関する基礎知識を学んでいきます。	
到達目標	社会保障について、理念と意義、法制度などを学んで現代社会の現状と課題を学んでいきます。社会保障が人権をどのように保障しているのかを、考えていきます。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	前期内容	
	①授業概要と自己紹介	1
	②現代の日本社会	1
③人の一生と社会福祉	1	
④社会福祉の理念と意義	2	
⑤日本の社会福祉の歴史	2	
⑥社会福祉三法から社会福祉六法	6	
⑦前期まとめ	1	
⑧前期期末試験返却	1	
後期計 (15週)	後期計 15時間	
後期内容		
⑨ヨーロッパ・アメリカの社会福祉の歴史	5	
⑩5つの社会保険制度	5	
⑪公衆衛生と感染症	2	
⑫社会保障制度の現状と課題	1	
⑬後期まとめ	1	
⑭後期期末レポート返却	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期は、期末試験のみで、中間試験はありません。後期は、期末レポートのみで評価します。	
履修上の留意点	質問・疑問などは遠慮なく納得できるまで聞いてください。	
自己学習の進め方	ニュース等を参考にしながら、現代社会を意識してください。	
使用教科書	使用しません。	
参考書/参考資料	社会福祉基礎(実教) 必要ときは、資料・プリントを配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	新井敏夫	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1.自然科学の考え方について考察し、科学的な考え方についての理解を深めます。 2.地球の成り立ちと歴史について理解を深めます。 3.生物の分類と進化について理解を深めます。 4.元素の分布や性質について理解を深めます。 5.音の性質や種類について理解を深めます。 6.身近なものに共通して見られる要素を探し、科学的に捉えます。	
到達目標	理療教科における学習に必要な自然科学の基礎的な概念、原理、法則等を理解して説明または正誤の判定ができること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	前期内容	
	1. 授業の概要説明	1
	2. 地球の誕生と歴史 (1)太陽系誕生 (2)地球の成り立ち (3)地質時代区分と地球環境の変遷	6
	3. 生物の進化 (1)生物の分類と系統 (2)生物の進化 (3)生物の繁栄と絶滅	6
	前期のまとめ	1
	前期末試験講評	1
	後期計 (15週)	後期計 15時間
後期内容		
4. 元素について (1)元素の分布と割合 (2)元素の発見と歴史 (3)元素の性質	6	
5.音について (1)音の性質 (2)音の種類 (3)様々な音(機械音、電子音、鳴き声など)	6	
後期のまとめ	1	
後期末試験講評	1	
6.身近なものに共通する要素 7の例	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の2回の定期試験を実施し、その平均点を年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)	
履修上の留意点	中間期評価は実施しません。	
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて行います。資料をよく読み、講義内容を把握して講義に望んでください。講義後は復習し、内容の理解に努めてください。また、日常生活において、関係する科目の内容とのつながりや広がりも考えられるよう心がけてください。	
使用教科書	なし。プリントを配布します。	
参考書/参考資料	必要に応じて模型などの資料を持ち込みます。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	細川健一郎	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。 体力測定を通して身体の状態を客観的にとらえることについて学びます。 スポーツ傷害とテーピングの基本的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1. 運動・スポーツを生涯にわたって継続していく重要性を理解して、実践することができる。 2. 運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。 3. スポーツ傷害とテーピングの基礎を理解する。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 体づくり運動	3
	3. 陸上競技	3
	4. 球技	2
	5. レクリエーションゲーム	1
	6. 体力測定	2
	7. 体育理論	1
	8. 保健理論	1
	後期計 (15週)	後期計15時間
	1. 体づくり運動	5
	2. 球技	5
	3. スポーツ傷害とテーピング	3
	4. 体育理論	1
	5. 保健理論	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更することがあります。	
自己学習の進め方	既習の内容は、余暇活動での活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	全国障害者スポーツ大会競技規則集及び解説集	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学 I (運動学を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	木村秀伯	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	骨系、筋系、神経系の位置・形態・構造とその運動について学びます。	
到達目標	骨系、筋系、神経系の位置・形態・構造を理解して、人体や模型上で確認できること、及びそれらの運動の仕組みについて説明、又は記述できること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 60時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 解剖学の基礎 (1)解剖学の意義と分類 (2)人体の構成 (3)解剖学的用語 (4)人体の方向と運動	10
	3. 運動器系(骨格系) (1)総論 (2)脊柱 (3)胸郭 (4)上肢の骨格、上肢の関節と運動 (5)下肢の骨格、下肢の関節と運動 (6)頭蓋骨	30
	4. 運動器系(筋系) (1)総論 (2)体幹、体幹の筋、運動、局所解剖	19
後期計 (15週)	後期計 60時間	
4. 運動器系(筋系) (2)体幹 体幹の筋、運動、局所解剖 (3)上肢 上肢の筋、運動、局所解剖 (4)下肢 下肢の筋、運動、局所解剖 (5)頭蓋 頭蓋の体表および局所解剖	24	
5. 神経系 (1)神経系の校正 (2)中枢神経系 (3)伝導路 (4)末梢神経系	36	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の年4回の総括的評価を実施します。また、学年末成績は、各期の評価の相加平均とします。(小数点以下は切り捨て)	
履修上の留意点		
自己学習の進め方	解剖学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも解剖学の知識は重要となります。 授業が終わったら必ずその内容を復習して下さい。教科書をよく読み込み十分に理解しておくことが大切です。また、分からないことがあればそのままにせず質問するようにして下さい。	
使用教科書	解剖学<第2版>テキスト版、図譜版【河野邦雄他著/医歯薬出版】	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	水沼健生	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
授業内容 (授業科目の概要)	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・感覚器系について、各種模型などを使用しながら実施する	
到達目標	施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造について学習し、これを施術に応用する能力を習得する。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	1. 循環器系 総論 心臓 動静脈 リンパ系 関係器官	25
	2. 呼吸器系 気道・肺	10
	3. 消化器系 口腔・食道・胃・小腸・大腸	15
	後期計 (15週)	後期計45時間
	3. 消化器系 肝臓・胆嚢・膵臓	8
	4. 泌尿器系 腎臓・膀胱。尿路	8
	5. 生殖器系 男性生殖器・女性生殖器	8
6. 内分泌系 各内分泌器官	7	
7. 感覚器系 視覚器・聴覚平衡器・味覚器・嗅覚器	12	
8. 国家試験演習	2	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期中間期末・後期中間期末にそれぞれ筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	他の科目との関連性について意識できるように学習を進める。また国家試験に向けて過去問などの解説も行う	
自己学習の進め方	分からない箇所については積み残さないように、毎授業後に復習を行い自身の記憶度や理解度を確認する。	
使用教科書	人体の構造と機能 解剖学	
参考書/参考資料	解剖学講義	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	土志田 武	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	安全な施術をするためには人体の構造と生理機能を理解することが重要です。本講座では基本となる正常な人体の生理機能について学習します。	
到達目標	生理学の基礎的な専門用語を理解し、人体を構成する細胞および器官の働きについて簡潔に説明できる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	オリエンテーション	1
	1. 生理学の意義	4
	2. 循環	14
3. 呼吸	10	
※前期中間試験	1	
後期計 (15週)	後期計 30時間	
4. 消化と呼吸	9	
5. 代謝	10	
6. 体温	10	
※後期中間試験	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末評価(何れも筆記試験)の平均点を学年末評価とします(小数点第一位は切り捨て)。	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成評価のため2回中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	生理学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも生理学の知識は重要となります。試験前の学習でだけで点数が取れたとしてもそれは自分自身の知識とはならず、忘れてしまい、そのことは他の学習や実技にも大きく影響します。授業が終わったら必ずその内容を復習して下さい。教科書をよく読み込み充分に理解しておくことが大切です。また、わからないことがあればそのまま放置せず質問するようにして下さい。	
使用教科書	人体の構造と機能 生理学第3版 医歯薬出版	
参考書/参考資料	授業で必要に応じて配布または紹介します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	関係法規	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	伊達 徳昭	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
授業内容 (授業科目の概要)	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師の業務に関する法律(以下あはき法)および医療・社会福祉等に関する客種法令の概要について学習します。	
到達目標	各法令について業務を行う際必要な事項を学習し活用できる力を養うことを目標とします。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計15時間
	1. あはき法における免許	5
	2. あはき法における業務	7
	3. あはき法における罰則	3
	後期計 (15週)	後期計15時間
	1. 医療公衆衛生に関する法律	5
	2. 社会福祉に関する法律	4
	3. 社会保険に関する法律	4
4. あはき法を中心とした復習	2	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末・後期期末にそれぞれ筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点		
自己学習の進め方	予習・復習を確実にに行い、疑問点は次の授業で質問するよう習慣づけてください。	
使用教科書	医療と社会 改訂第8版	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	中西 初男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な東洋医学の基本的概念、東洋医学的な形態感と機能感、病因病機、診断法、診察法ならびに治療法の基礎的な事項を学びます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学の基本的な特色を述べるができる。 ・気血津液・臓腑の基本的概念と生理機能について説明することができる。 ・病因病機(三因と疾病の発生)を説明することができる。 ・診断法(病証論)を説明することができる。 ・診察法(四診)を説明することができる。 ・東洋医学的な治療法の概要を述べるができる。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 東洋医学の基礎(東洋医学の意義、陰陽論、五行論)	6
	3. 気血津液の概要	6
	4. 六臓六腑(臓腑の概要と生理機能)	12
	5. 病因論(内因・外因・不内外因・三毒説)	5
	後期計 (15週)	後期計 30時間
	6. 病証論(八綱・気血津液・臓腑・経脈病証)	18
	7. 東洋医学的診察法と証の立て方 (四診、八綱・気血津液・臓腑弁証)	10
	8. 治療法(手技療法、鍼灸療法、湯液)	2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。
成績評価の方法	前期末、後期末の年2回の総括的評価の平均点もって年間評価とする。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施する。	
履修上の留意点	各学期の中間期など必要に応じて形成的評価を行います。経絡経穴概論 I の内容も学習範囲に含まれます。	
自己学習の進め方	予習は、教科書を事前に一度読む事をおすすめします。内容の意味がわからなくてもかまいませんので、まずは声に出して読んでみて下さい。読めない漢字は飛ばして下さい。復習は、もう一度教科書を読んで下さい。その時は、ある程度内容が理解できている事を確認して下さい。	
使用教科書	基礎理療学 I (東洋医学概論)	
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編「東洋医学概論」、日中共同編集「針灸学(基礎編)」	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	藤井 徹	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義（取穴に関しては一部実技を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の基礎、正経十二経と督脈・任脈に附属する経穴の名称と部位について学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.経絡と経穴の概念について説明できる。 2.奇経八脈のうち督脈・任脈を理解し説明できる。 3.陰陽、臓腑、経絡の関係を理解し説明できる。 4.十二経脈の名称と走行、流注を理解し説明できる。 5.各経穴がどの経脈に属するか理解し説明できる。 6.骨度法、同身寸法の概念を理解しそれを用いて人体に取穴することができる。 7.要穴のなかで五要穴について理解し、取穴することができる。 	
授業計画	前期計（15週）	前期計 45時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 経絡経穴の基礎 (1)経絡・経穴の誕生、(2)臓腑の概要 (3)経絡の概要、(4)経穴の概要	10
	3. 経脈・経穴 (1)経穴の取り方に必要な用語 (2)十四経脈とその経穴 ①督脈、②任脈、③手の太陰肺経 ④手の陽明大腸経、⑤足の陽明胃経、⑥足の太陰脾経	34
後期計（15週）	後期計 45時間	
3. 経脈・経穴 (2)十四経脈とその経穴 ⑦手の少陰心経、⑧手の太陽小腸経、⑨足の太陽膀胱経 ⑩足の少陰腎経、⑪手の厥陰心包経、⑫手の少陽三焦経 ⑬足の少陽胆経、⑭足の厥陰肝経	43	
4. 経絡・経穴の現代的研究 (1)経絡現象 (2)経穴の概念と現代科学的研究	2	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床経験を活かして、取穴においては体表観察等を充実させて実践的な指導を行います。
成績評価の方法	総括的評価は前後期の中間・期末に年4回実施し、前後期の評価の平均点をもって年間評価とします。なお、成績は小数点第1位で切り捨てた整数とします。	
履修上の留意点	あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。	
自己学習の進め方	経穴の部位を暗記するだけでなく、その部位を手指で触れられるように普段から積極的に身体に触れるように心がけてください。 また、筋肉、神経、動脈(拍動部)などの知識については特に解剖学の教科書を参考に復習してください。	
使用教科書	新版 経絡経穴概論(第2版)東洋療法学校協会編 医道の日本社	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	木村秀伯 土志田武	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩の沿革、施術者としての注意点、基本手技、全身あん摩(側臥位・仰臥位・腹臥位)などについて学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての注意事項(身だしなみ・真摯な態度・言葉遣い・揉み返しや骨折の回避・衛生管理など)について、説明・記述できる。 2. 施術部位の術式について説明・記述できる。 3. 施術部位の揉捏法などの漸増漸減圧や骨及び筋の触診が的確に行える。 4. 全身あん摩を適切な時間内に行える。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 60時間
	(前期)	
	1. オリエンテーション 施術者としての注意事項 あん摩の沿革	2
	2. 施術部位の名称 基本手技	10
	3. 側臥位のあん摩	48
	後期計 (15週)	後期計 60時間
	(後期)	
	4. 側臥位のあん摩	20
	5. 仰臥位のあん摩	15
	6. 伏臥位のあん摩	25
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点を学年末評価(小数点第一位は切り捨て)とし、60点以上で単位修得となる。 2. 学年末評価が60点未満の場合、単位修得できず原級留置となる。 	
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中間期には形成的評価を実施する。 2. リスク管理・衛生管理に充分配慮する。特に母指圧の力度は技術者に合わせる。 3. 骨・関節・筋などは解剖学と関連するので、充分学習する。 	
自己学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日ごろから母指の鍛錬を行う。 2. 予習は自薦に施術部位の術式を暗記しておく。 3. 復習は各自、授業で習った部位の施術練習を行う。 	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	「理療基礎実習」日本ライトハウス 刊 「あん摩基礎実習マニュアル」	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	藤井 徹	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	マッサージの基礎的な技術や身体各部に対する術式を学び、施術の流れを理解するとともに施術者としての能力と態度を養います。	
到達目標	1.手技療法としてのマッサージの歴史やその意義を理解することができる。 2.マッサージの基本手技を理解し習得することができる。 3.身体の使い方(重心移動)を習得することができる。 4.身体各部位に応じた手技・術式の基礎を習得することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	1. 施術への導入 (1) 施術者としての心構え (2) マッサージの沿革および意義と役割 (3) 施術室の管理および実習用具の取扱い (4) 衛生管理(手指の消毒を含む) (5) リスク管理 (6) 作用機序の概要	2
	2. マッサージの基礎 (1) 人体の区分 (2) マッサージの基本手技(6種類)	8
	3. 身体各部へのマッサージ (1) 上肢(手部、前腕、上腕) (2) 下肢(足部、下腿、大腿)	10 10
	後期計 (15週)	後期計 30時間
	3. 身体各部へのマッサージ (3) 体幹(頭頸部、胸腹部、背部) (4) 上肢の各関節(手関節、肘関節、肩関節) (5) 下肢の各関節(足関節、膝関節、股関節)	15 8 7
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床経験を活かして実践的な指導を行います。
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。 なお、成績は、小数点第1位で切り捨てた整数とします。	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	実技授業は復習が大切です。 この授業では身体各部へのマッサージを練習しますので、授業終了後は術式等復習しておいてください。 また、基本手技については手が思うように動くまで反復練習することをお勧めします。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実技Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	今井 進 吉富助手	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	指圧の基礎技術を実習形式により、体験的に学びます。臨床実習の前段階として、部位別の施術法を中心に学びます。	
到達目標	1. 施術者として態度、心構えを身につけます。 2. 指圧の基本手技、部位・体位・姿勢による操作の特徴を学びます。 3. 施術を行う上でのリスク管理、被施術者への配慮等を身につけます。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. 施術への導入 ①指圧の意義と役割 ②施術者としての心構え ③施術室の管理 ④施術用具の取扱い ⑤衛生管理(手指の消毒を含む) ⑥リスク管理	5
	2. 指圧施術上の基本的事項 ①押圧操作 ②押圧の三原則 ③母指圧の型 ④按摩手技の応用	25
	後期計 (15週)	後期計30時間
	3. 指圧の基本手技 ①押圧操作法 ②運動操作法	10
4. 腹臥位の指圧 ①背部 ②殿部 ③下肢 ④後頭部・後頸部・肩上部	10	
5. 背臥位の指圧 ①腹部 ②下肢 ③頸部	10	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を活かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	前期末、後期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。各評価は、試験に実習態度等を加味したものとします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意しましょう。身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意しましょう。クラスメートを患者想定で進めます。誰もがお互いに敬意を払う態度で取り組みましょう。	
自己学習の進め方	授業時間内での練習が主となりますが、学習した基本手技については、授業以外の時間帯にも反復継続して訓練して下さい。正確な手技や体位で行うことに注意し、技能の向上を図るように努めてください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	池田正道・上野博之	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり施術に関する基礎的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1. 身だしなみを整え、身のまわりの衛生管理を意識し、施術される相手を思いやった施術ができるようになる。 2. 寸3-2番、寸6-2番の鍼を使用し、目的の経穴に目的の深さまで刺鍼できるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 施術への導入 (1) 鍼施術の意義と役割 (2) 施術者としての心構え (3) 施術室の管理 (4) 施術用具の基礎知識とその取り扱い (5) 衛生管理(手指の消毒を含む) (6) リスク管理(感染予防対策を含む)	2
	3. 施鍼の基礎 (1) 消毒法の実際 (2) 前揉捏と後揉捏 (3) 押手と刺し手 (4) 管鍼法と燃鍼法 (5) 刺入法と抜針法	10
	4. 基本手技	5
	5. 身体各部への刺鍼	27
	6. 主な経穴への刺鍼 ※5. 6. は自身、クラスメイトの体へ刺鍼の順	
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	7. 施鍼の基礎 (1) 消毒法の実際 (2) 前揉捏と後揉捏 (3) 押手と刺し手 (4) 管鍼法と燃鍼法 (5) 刺入法と抜針法	45
	8. 基本手技 ※7. 8. の内容を随時確認しながら実施	
	9. 身体各部への刺鍼	
	10. 主な経穴への刺鍼 ※9. 10. はクラスメイトを相手に実施	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院勤務の経験を活かし、臨床現場での施術の様子などを話すことで、基礎練習の中でも実際の現場の雰囲気を感じとれ、練習の動機付けとなれるようにします。
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします、(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	6月、11月に形成評価のため、2回中間試験を行います。	
自己学習の進め方	事故防止の観点から原則として鍼基礎Ⅰの授業以外の時間には鍼は使用できません。 放課後に練習したい場合は教官にご相談ください。	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンス研究会	
参考書/参考資料	人体の構造と機能解剖学(第2版第14刷)、新版 経絡経穴概論	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	専門1年	
担当教官名	水沼健生 森定真	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	灸施術に必要な艾の鑑別、保存などや、施灸の種類、施灸の方法、施灸の実際までを経験し、修練をおこなう。個々の特性による課題についても、克服に向け個別の指導を行う。	
到達目標	施術者として必要な施術に関する知識と技能について学習し、施術を安全、適切かつ効果的に行う能力と技能を修得する。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1 オリエンテーション	2
	2 艾 艾の種類・品質と鑑別と保存、線香	3
	3 施灸の種類 有痕灸各種、無痕灸各種	4
	4 施灸の実際 無痕灸 知熱灸・各種温灸・各種隔物灸 手順・線香の取り扱いと点火、燃焼後の灰処理 施灸の練習・工夫	21
	後期計 (15週)	後期計30時間
	有痕灸 艾炷の形と大きさ・艾炷のひねり方 線香の取り扱いと点火・燃焼後の灰処理 施灸の工夫・施灸の練習	10
	5 身体各部の施灸 灸の大きさ、壮数について、身体斜面への施灸・四肢への施灸・体幹への施灸	10
	6 施灸時の接遇 声掛けを含むベッドサイドでの接遇について ※視覚障害者の施灸に関してより高い水準で安全性と実効性を念頭におき、創意・工夫し、利用者個々の特性に合った補助具などを使用するなどの配慮に留意する。	10
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意しましょう。施術に対してお互いに敬意を払う態度で取り組みましょう。火傷のリスクが高いため火気の取り扱いには十分に留意しましょう。	
自己学習の進め方	併進している解剖学や経絡経穴学などの知識を確認しながら取り組む。また、個々の特性にあった施術方法を実現するために、自身にとっての課題と向き合い必要なものを探求する。課題解決に必要なものやことについては指導教官と話し合い工夫する。	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンズ研究会編	
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅰ 教官用指導マニュアル	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	有馬伊津子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	季節感を大切にしながら言葉(日本語)の面白さについて考えます。また、コミュニケーションについても学びます。	
到達目標	言葉(日本語)の面白さについて自ら考えようとする。医療面接におけるコミュニケーションの大切さを理解すること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	1、オリエンテーション① 人文科学概論で学習すること	1
	2、オリエンテーション② 自己紹介(今年度の目標)	1
	3、俳句と川柳	3
	4、百人一首	2
	5、季節の言葉	2
	6、医療面接	4
	7、前期学習のまとめ	1
	8、前期試験の振り返りと創作作品発表	1
	後期計 (15週)	後期計 15時間
1、オリエンテーション 後期の人文科学概論で学習すること	1	
2、自己の振り返り	1	
3、俳句と川柳	3	
4、医療面接	6	
5、季節の言葉	2	
6、後期学習のまとめ	1	
7、後期試験の振り返りと創作作品発表	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	筆記試験(前期・後期)、授業で課した課題・創作を総合して評価します。	
履修上の留意点	授業ごとに俳句・川柳の創作作品の提出を求めます。	
自己学習の進め方	毎回の授業をしっかりと聞き、要点を自分で整理してみてください。分からないことがあれば、質問してください。常に、身の回りの言葉に関心を持ってください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	村上初枝	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	日本国憲法・政治・経済を中心に基礎的なことを学んでいきます。	
到達目標	社会情勢をみながら、日本・世界にどのような課題・問題があるのかをみていきます。 持続可能な社会をつくるには何が大切か考えます。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	前期内容	
	①日本国憲法の歴史 三大原理・人権・三権分立・立憲主義	3
	②日本経済の歴史(戦後から現在)	4
③環境問題(公害・地球温暖化)・自然災害	4	
④エネルギー問題・食糧問題(農業)	2	
⑤前期まとめ	1	
⑥前期期末試験返却	1	
後期計 (15週)	後期計 15時間	
後期内容		
⑦法の役割(労働法・選挙制度)	3	
⑧経済のしくみ(市場経済・金融・国境をこえる経済)	4	
⑨情報社会・デジタル化とは	2	
⑩持続可能な社会と国際社会	3	
⑪社会保障の機能とは	2	
⑫後期レポート返却	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期は、期末試験のみで、中間試験はありません。後期は、期末レポートのみで評価します。	
履修上の留意点	特にありません。	
自己学習の進め方	予習・復習は必要はないですが、疑問を持ったことは、調べていきましょう。	
使用教科書	使用しません。	
参考書/参考資料	高校教科書(政治経済・公共) 必要時にプリント・資料を配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	新井敏夫	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1.自然科学の考え方について考察し、科学的な考え方についての理解を深めます。 2.日常的によく使う単位に関して、その意味と役割について理解を深めます。 3.太陽系の天体について理解を深め、現在の宇宙観を考えます。 4.データベースについての理解を深め、「電子カルテ」の操作について習熟をはかります。	
到達目標	理療教科における学習に必要な自然科学の基礎的な概念、原理、法則等を理解して説明または正誤の判定ができること。	
授業計画	前期計 (15週)	
	前期内容	前期計 15時間
	1. 授業の概要説明	1
	2. 単位について	6
	(1)様々なものの数え方	
	(2)単位の歴史	
	(3)基本単位の定義と組み立て	
	3. 太陽系の天体	6
	(1)天体とは	
	(2)太陽系の惑星	
(3)星が光るしくみ		
前期のまとめ	1	
前期末試験講評	1	
後期計 (15週)		後期計 15時間
後期内容		
4. 情報機器について	1	
情報機器の歴史と現在		
5.「電子カルテ」ソフトのしくみ	1	
データベース構造から見たカルテソフトの見方		
6. 「電子カルテ」の操作	10	
(1)入力と出力		
(2)操作時のトラブル解消法		
後期のまとめ	1	
後期末試験講評	1	
7.身近なものに共通する要素	1	
形の例		
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期、後期の2回の定期試験を実施し、その平均点を年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)	
履修上の留意点	中間期評価は実施しません。	
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて行います。資料をよく読み、講義内容を把握して講義に望んでください。講義後は復習し、内容の理解に努めてください。また、日常生活において、関係する科目の内容とのつながりや広がりも考えられるよう心がけてください。	
使用教科書	なし。プリントを配布します。	
参考書/参考資料	必要に応じて模型などの資料を持ち込みます。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	細川健一郎	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。 体力測定を通して身体の状態を客観的にとらえることについて学びます。 スポーツ傷害とテーピングの基本的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1. 運動・スポーツを生涯にわたって継続していく重要性を理解して、実践することができる。 2. 運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。 3. スポーツ傷害とテーピングの基礎を理解する。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 体づくり運動	2
	3. 陸上競技	3
	4. 球技	2
	5. レクリエーションゲーム	3
	6. 体力測定	2
	7. 体育理論	1
	8. 保健理論	1
	後期計 (15週)	後期計15時間
	1. 体づくり運動	2
	2. 陸上競技	2
	3. レクリエーションゲーム	5
	4. スポーツ傷害とテーピング	4
	5. 体育理論	1
	6. 保健理論	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更することがあります。	
自己学習の進め方	既習の内容は、余暇活動での活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	全国障害者スポーツ大会競技規則集及び解説集	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	伊達 徳昭	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体各機能の働きと生理的作用について学習します。	
到達目標	授業で身につけた知識を施術に応用できる力を身につけることを目標とします。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	1. 内分泌	8
	2. 生殖・成長と老化	7
	3. 神経	30
授業計画	後期計 (15週)	後期計45時間
	1. 筋	8
	2. 運動	12
	3. 感覚	15
4. 生体の防御	5	
5. 身体活動の協調	5	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期中間・期末、後期中間・期末にそれぞれ筆記試験を実施し、各期の平均点を各期成績とし、前期成績と後期成績の平均をもって学年末評価とします。	
履修上の留意点	単に用語等の記憶に終始せず、生体各機能のメカニズムに着目した学習を心がけてください。	
自己学習の進め方	予習・復習を確実にし、疑問点は次の授業で質問するよう習慣づけてください。	
使用教科書	人体の構造と機能 生理学第3版 医歯薬出版	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	病理学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	水沼健生	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
授業内容 (授業科目の概要)	疾病の基礎・病因・循環障害・退行性病変・進行性病変・炎症・腫瘍・免疫異常とアレルギーについて、前年度学習済みの解剖学、生理学との関連を説明し理解を深める	
到達目標	施術者として必要な疾病の本態や各病変の概要について教授し、これを臨床に応用する知識と能力を修得させる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. 病理学の基礎	3
	2. 病因	7
	3. 循環障害	8
	4. 退行性病変	6
	5. 進行性病変	6
	後期計 (15週)	後期計30時間
	6. 炎症	10
	7. 腫瘍	11
8. 免疫異常とアレルギー	8	
9. 国家試験演習	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とする。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期にはそれぞれの到達度を確保するための形成的評価を実施する。	
履修上の留意点	他の科目との関連性について意識できるように学習を進める。また国家試験に向けて過去問などの解説も行う。	
自己学習の進め方	分からない箇所については積み残さないように、毎授業後に復習を行い自身の記憶度や理解度を確認する。	
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ 病理学概論	
参考書/参考資料	病理学概論 東洋療法学校協会編	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学総論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	小田剛	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な西洋医学における診察法(医療面接や身体診察)、臨床検査法、治療法の概要について学びます。	
到達目標	各種診察法や臨床検査法の意義、治療法の概要を説明できると共に、得られた所見から疑われる疾病(疾患名)について診断推論できること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	1. 診察法	
	(1) 診察の概要	2
	(2) 問診(医療面接)	2
	(3) 視診	4
	(4) 打診	10
	(5) 聴診	4
	(6) 触診	4
	(7) 測定法	4
	(8) 生命兆候(バイタルサイン)	5
	後期計 (15週)	後期計45時間
(9) 神経系の診察	6	
(10) 運動機能検査	6	
2. 臨床検査法		
(1) 一般検査	10	
(2) 生化学検査	4	
(3) 生理学的検査及び画像診断の概要	4	
3. 治療法		
(1) 治療の意義と分類	2	
(2) 薬物療法	2	
(3) 食事療法	2	
(4) 理学療法	2	
(5) その他の療法	2	
4. 臨床心理	5	
実務経験の有無 その活かし方	有 はり師、きゅう師 病院や大学院での実務経験を生かし実際の臨床でも応用できる診察のポイントを紹介します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の年4回の総括的評価を実施します。また、学年末成績は、各期の評価の相加平均とします。(小数点以下は切り捨て)	
履修上の留意点	教科書や配付資料を熟読し内容の理解に努めてください。また履修済科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノート等を作成するように心掛けてください。	
自己学習の進め方	教科書や配付資料を熟読し内容の理解に努めてください。また履修済科目の解剖学や生理学等の内容についても振り返り知識の整理に努め、まとめのノート等を作成するように心掛けてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	池田正道	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後について学習する。	
到達目標	各疾患の主な特徴を理解し、概念や原因、症状、検査、治療法等について簡潔に説明出来る。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 整形外科疾患 (保存療法と手術療法、関節疾患、骨代謝疾患・骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患、脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患) ※前期中間試験	43 1
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	3. 神経疾患 (脳血管疾患、感染性疾患および脱髄性疾患、脳・脊髄疾患、基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経疾患、神経痛、頭痛) 4. 一般外科 (外傷総論、ショック、熱傷) 5. ペインクリニック (麻酔科、ペインクリニック) 6. 精神科疾患 (精神科疾患の現代の分類、心身症、神経症、気分(感情)障害と統合失調症、摂食障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、アルコール依存症) ※後期中間試験	30 4 4 6 1
	実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院での実務経験を活かし、特に遭遇することの多い疾患については経験談を交えながら重点的に解説します。
成績評価の方法	前期中間・期末、後期中間・期末の評価の平均点を学年末評価とします、(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	1. 各疾患の概念、病態生理、原因、症状、検査、治療、予後については、国家試験の出題頻度の高い疾患や主に理療臨床で遭遇することの多い疾患等に重点を置きながら解説します。 2. 適宜、解剖学や生理学、臨床医学総論等の関連科目に留意しながら指導をおこないます。 3. 総括的評価として、前期中間・期末、後期中間・期末の計4回試験を実施します。	
自己学習の進め方	解剖学や生理学といった人体の構造と機能に関する知識については、教科書等を用いて逐次復習し、授業で学習した知識のベースアップに努めてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上巻・下巻	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	藤井 徹	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり師・きゅう師として必要な東洋医学の基礎、生理観、疾病観、診断法、治療法について学びます。	
到達目標	東洋医学の基礎理論、生理観、疾病観、診断法について理解し、東洋医学的治療法についても説明できるようになる。さらに、これらを治療に応用できるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 東洋医学の基礎理論 (1)東洋医学の意義と特徴、(2)陰陽五行論	17
	3. 東洋医学の生理観 (1)東洋医学における人体の構成 (2)気・血・津液・精・神の生理 (3)臓象論、(4)経絡と経穴	17
	4. 東洋医学の疾病観 (1)病因論 (2)病理・病証論 ①八綱病証 ②気・血・津液・精の病理と病証 ③臓腑の病理と病証	10
	後期計 (15週)	後期計 45時間
4. 東洋医学の疾病観 ④経絡病証 ⑤経筋病証 ⑥六経病証	10	
5. 診断論 (1)四診法、(2)証の立て方	25	
6. 治療論 (1)はりきゅう両方、(2)手技療法	10	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床経験を活かして、東洋医学的観点から病態把握し、治療法を導き出す実践的な指導を行います。
成績評価の方法	総括的評価は前後期の中間・期末に年4回実施し、前後期の評価の平均点をもって年間評価とします。なお、成績は小数点第1位で切り捨てた整数とします。	
履修上の留意点	はり師・きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を行います。	
自己学習の進め方	東洋医学概論の難解な言葉や漢字については、事前に読みを調べるにより学習がスムーズに進みます。授業が終わったら必ずその内容を復習し、不明な箇所はそのままにせず質問するようにしてください。	
使用教科書	基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第7版	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	中西 初男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体に於ける経穴の全容、十二経脈経八脈、経穴各論(経穴、奇穴、組合わせ穴)、経絡及び経穴の現代医学的研究などについて学びます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同身寸法、骨度法の内容を理解し、それを用いて人体に取穴することができる。 ・十四経脈の走行・流注の概要を理解し、説明することができる。 ・十四経脈所属の経穴を理解し、取穴することができる。 ・要穴を理解し、取穴することができる。 ・経絡・経穴の現代的研究の概要を説明できる。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 奇経八脈 (1)衝脈、(2)帯脈、(3)陽蹻脈、(4)陰蹻脈、(5)陽維脈、(6)陰維脈	8
	3. 奇穴 (1)頭蓋部、(2)胸腹部、(3)背腰部、(4)上肢部、(5)下肢部	7
	4. よく使われる経穴の組み合わせ (1)六つ灸、(2)小児斜差の灸、(3)中風七穴、(4)脚気八処の穴	3
	5. 経絡・経穴の現代的研究	2
	6. 要穴 (1)原穴・郄穴・兪穴(背部兪穴)、(2)四総穴 (3)八脈交会穴、(4)八会穴、(5)下合穴	4
	7. 十四経脈の走行、流注の概要、所属の経穴取穴法 (1)督脈、(2)任脈	5
	後期計 (15週)	後期計 30時間
7. 十四経脈の走行、流注の概要、所属の経穴取穴法(続き) (3)手の太陰肺経、(4)手の陽明大腸経、(5)足の陽明胃経 (6)足の太陰脾経、(7)手の少陰心経、(8)手の太陽小腸経 (9)足の太陽膀胱経、(10)足の少陰腎経、(11)手の厥陰心包経 (12)手の少陽三焦経、(13)足の少陽胆経、(14)足の厥陰肝経	25	
8. 総合 横並びの経穴	4	
9. まぎらわしい経穴	1	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とする。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施する。	
履修上の留意点	・模型や身体を使って取穴し、見えなくともわかりやすい授業になるよう工夫します。	
自己学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・予習は、漢字の読み方や経穴部位の確認などを重点に行ってください。 ・復習は、習ったところをノートにまとめ、経穴部位の確認を行ってください。 	
使用教科書	経絡経穴概論 第2版(日本理療科教員連盟・社団法人 東洋療法学校協会 編 教科書執筆小委員会 著)	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅰ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	中西 初男・藤井 徹	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に習得した基礎的技術をさらに習熟させるとともに、疾患別に応じた問診・診察・治療法など、施術者として必要な応用的な施術に関する内容について学びます。 また、臨床実習前評価を行うことにより、臨床で応用できる知識や技術が身についているか評価します。	
到達目標	①疾患別に応じた問診・診察・治療の内容について理解し、施術できるようになる。 ②所定の時間内に全身あん摩ができるようになる。 ③施術過誤を起こさないように安全なあん摩施術ができるようになる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計 60時間
	1.1年次の復習	8
	2.部位別の施術 (1)肩背部 (2)上肢 (3)頭頸部 (4)腰殿部 (5)下肢	52
	3.肢位別の施術 (1)側臥位 (2)伏臥位 (3)仰臥位 ※2.と3.は同時に行います。	
	後期計（15週）	後期計 60時間
	4.疾患別の施術 (1)頸・肩・腕の疾患 (2)背腰部の疾患 (3)下肢痛 (4)その他 ※授業の進行状況により、前期で上記の疾患を扱う場合があります。	44
5.模擬臨床実習	12	
6.総まとめ	4	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床経験を活かして実践的な指導を行います。	
成績評価の方法	前期末・後期末評価に加えて、臨床前評価も含めた平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	各学期に臨床実習前評価を実施します。 6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	実技授業は復習が大切です。この授業では身体各部へのあん摩を練習しますので、授業終了後は術式等復習しておいてください。 また、全身あん摩を所定の時間内でできるよう術式を組み立てられるようにしてください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用Ⅱ(臨床前評価を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	今井 進 池田 正道	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について学習し、施術を適切かつ効果的に実践できる能力と態度を養います。また、臨床実習前に臨床前試験等を行い、円滑に臨床実習が開始できるようにします。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての基本的態度、礼節を身につけます。 2. 主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行えるようにします。 3. あま指施術に応用できる各療法を安全かつ適切、効果的に行えるようにします。 4. 臨床実習に参加できる知識と技術を身につけます。 5. リスク管理に留意し、適切に対処できるようにします。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. 臨床入門 ア リスク管理 イ 関連する手技療法 ウ 患者への対応 エ 診察の進め方 オ 適否の判定	5
	2. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する運動療法 ア 腰痛体操 イ 五十肩体操 ウ 肩こり体操 エ 膝痛に対する大腿四頭筋訓練 オ その他の治療体操(健康十巧など)	20
	3. 臨床実習前試験等 コミュニケーション、徒手検査法(頸部・腰部)	5
	後期計 (15週)	後期計30時間
	4. 関連する手技療法 ア 推拿 イ 関節モビリゼーション ウ リフレクソロジー	7
	5. 施術に応用する物理療法 ア 温熱療法 イ 電気療法 ウ 牽引療法 エ その他	5
	6. 介護予防・機能訓練指導に必要な知識と技術 ア 運動機能評価 イ 包括的高齢者運動トレーニング ウ 介護に必要な基礎的事項 杖の種類と処方、杖歩行、車椅子紹介・操作	9
7. 臨床実習前試験等 コミュニケーション、徒手検査法(頸部・腰部)	5	
8. 臨床実習入門	4	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。各評価は、試験に実習態度等を加味したものとします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意しましょう。身体や白衣を清潔に衛生管理に留意しましょう。クラスメートを患者想定で進めます。誰もがお互いを敬意を払う態度で取り組みましょう。	
自己学習の進め方	授業時間内での練習が主となりますが、学習した基本手技については、授業以外の時間帯にも反復継続して訓練して下さい。正確な手技や体位で行うことに注意し、技能の向上を図るよう努めてください。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はり・きゅう応用実習Ⅰ(臨床実習前試験等を含む)	
課程	あん摩マッサー指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	上野博之・小田剛	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得した、はりきゅうの基礎的技術を発展させ、はりきゅう応用実習Ⅱと連携しながら、各種疾患や症状の総合的な診断や治療ができるようにします。	
到達目標	1. 施術者としての基本的態度、礼節を身につけること。 2. 主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行えること。 3. 主要な症状・疾患に対して安全かつ適切、効果的な鍼灸施術が行えること。 4. 臨床実習に参加できる知識と技術を身につけること。 5. 鍼灸に関わる過誤・副作用について対処できること。	
授業計画	前期計 (15週)	
	(1)分野別の治療法 ア 健康医学分野 イ 産業医学分野 ウ スポーツ医学分野 エ 老年医学分野 など	前期計60時間 30
	(2)臨床入門 ア リスク管理 イ 衛生管理 ウ 患者への対応 エ 診察の進め方 など	30
	後期計 (15週)	
	(3)日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術 運動器系、呼吸器・循環器系、消化器系、婦人科系 など	30
(4)鍼施術・特殊鍼法 ア 小児鍼法 イ 皮内鍼法 ウ 灸頭鍼法 エ 鍼通電療法 など	20	
(5)臨床実習前試験等 ア 環境整備(設備・器具等の準備及び片付け) イ 医療面接 ウ 身だしなみ、医療接遇・マナー エ 身体診察と施術計画 オ 配穴及び取穴法 カ 安全な施術操作とリスク管理 キ 施術後の対応(患者への説明・配慮) など	10	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。各評価は、試験に実習態度等を加味したものとします。また、臨床実習前試験を実施し、その評価も加味します。	
履修上の留意点	1. 実技技能を身につける科目のため、健康管理は普段から心掛けましょう。 2. 普段から身だしなみを整え、白衣等の清潔保持を心掛けましょう。 3. 実習中は、鍼刺し事故等の過誤が生じないように、充分留意してください。 4. 実習中は、教官の指示以外のことは行わないで下さい。 5. 年間を通して、応用的施術法だけでなく、臨床実習に向けた一連の流れを身につけることを心掛けましょう。 6. 各学期の中間期、期末試験を臨床実習前施術実技試験として、合わせて8時間実施します。 7. 臨床実習参加に著しい課題があると実技担当者が判断した場合、必要に応じて他の理療科教官も評価に加わる可能性があります。	
自己学習の進め方	毎回の授業の復習に重点を置き、受けた授業の内容を振り返るとともに、関係する科目の内容との連携も考えるよう心がけてください。	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンズ研究会	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はき応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	水沼健生 森定真	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	臨床実習に向けて、灸のリスク・適応などを学び、実践に近い形で灸の適応となる疾患の鑑別方法や様々な灸法と選穴などを学び、安全かつ的確な施術が出来る能力を身に付ける。また患者への接遇やインフォームドコンセントなどやベッドサイドの配慮事項などの総合力の獲得を目指す	
到達目標	身体各部位(常用穴)への施灸に際しての注意点や灸による過誤、副作用についても理解を深め、医療人としての基本的な態度を養うこと	
授業計画	前期計（15週）	前期計30時間
	1 施術への導入(オリエンテーションを含む) 施術室の管理・施術用具の知識と取り扱い 衛生管理・リスク管理 2 施灸の基礎 艾の鑑別、線香の取り扱いと艾炷への点火 3 基本的施灸法及び特殊灸法 知熱灸・透熱灸、隔物灸、温灸器具を用いた灸法 4 身体各部・主な経穴への施灸 5 臨床前試験 6 評価のフィードバック	4 2 8 15 1
授業計画	後期計（15週）	後期計30時間
	7 主な症候・疾患に対する診察と施術(施灸による全身調整法を含む) 8 臨床入門 リスク・衛生管理 患者への対応、診察の進め方 適否の判定 9 臨床前評価 10 評価のフィードバック 施灸時の接遇 声掛けを含むベッドサイドでの接遇について ※視覚障害者の施灸に関してより高い水準で安全性と実効性を念頭におき、創意・工夫し、利用者個々の特性に合った補助具などを使用するなどの配慮に留意する。	20 9 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期末、後期末の年2回の総括的評価の平均点をもって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期には形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	身体や白衣を清潔に保ち衛生管理に留意しましょう。施術に対してお互いに敬意を払う態度で取り組みましょう。火傷のリスクが高いため火気の取り扱いには十分に留意しましょう。	
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技術には、解剖学や経絡経穴概論で履修する学習内容も含まれており、関連する事項については授業中に解説を行い、次の実習までに復習していただく。授業時間外において、各自が人体施灸の練習する場合は、教官立ち合いの元で行うようにし、実習中に説明した注意事項を十分に守り、実習で習得した範囲内で練習するよう指導する	
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンズ研究会編	
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅰ 教官用指導マニュアル	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	衛生・公衆衛生学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	上野 博之	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な健康の保持、衛生学の基礎について学び、過去からの変遷、現在の課題などについても考えます。	
到達目標	衛生学・公衆衛生学の意義・健康の保持増進と生活・食生活と健康・生活環境と公害・各種保健・活習慣病策・感染症対策・消毒法・疫学・保健統計などの項目が説明できること。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	オリエンテーション 1. 公衆衛生の意義 2. 健康の保持と増進 3. 生活環境と公害 4. 産業保健 5. 精神保健	1 2 8 15 2 2
授業計画	後期計 (15週)	後期計 30時間
	6. 母子保健 7. 生活習慣病と老人保健 8. 感染症対策 9. 消毒法 10. 疫学 11. 衛生統計と人口統計	2 4 8 6 5 5
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末の平均点の学年末評価(小数点第1位切り捨て)が60点以上の場合、単位修得となります。学年末評価が50～59点の場合、再評価(補講・試験)を受けて、再評価試験結果が60点以上で単位修得となります。	
履修上の留意点	6月、11月に形成評価のため、2回中間試験を行います。	
自己学習の進め方	毎回の授業の復習に重点を置き、受けた授業の内容を振り返るとともに、單元ごとに練習問題を行ってください。 予習は次回行う範囲の教科書に目をとおしておいてください。	
使用教科書	疾病の成り立ちと予防 I 衛生・公衆衛生学(改訂第9版)盲学校理療科図書編纂委員会	
参考書/参考資料	教科書 衛生学・公衆衛生学(第2版)東洋療法学校協会編	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	今井 進	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	各疾患の基礎知識を身につけ、理療を安全で、有効に行うことができる基盤を学びます。	
到達目標	各疾患の概念、症状、診断、治療法等を理解し、概略を説明ができるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	(1) 血液・造血器疾患	4
	(2) 腎・泌尿器疾患	5
	(3) 内分泌器疾患	3
	(4) 男性生殖器疾患	3
	(5) 代謝・栄養疾患	4
	(6) 膠原病・類似疾患	7
	(7) 皮膚科疾患	5
	(8) 眼科疾患	4
	その他(まとめ・講評など)	10
	後期計 (15週)	後期計45時間
	(9) 耳鼻咽喉科疾患	6
	(10) 婦人科疾患	6
	(11) 精神科疾患	6
(12) 小児科疾患	6	
(13) 感染症疾患	10	
その他(まとめ・講評など)	11	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院で経験した症例と、当該科目の授業内容とを関連付けて指導します。	
成績評価の方法	前期(中間・期末)、後期(中間・期末)の年4回の総括的評価を実施します。学年末成績は、各期の評価の相加重平均とします。(小数点以下は切り捨て)	
履修上の留意点	4回の一斉試験が総括的評価となります。	
自己学習の進め方	毎回の授業の復習に重点を置き、受けた授業の内容を振り返るとともに、キーワードを記憶します。関係する他科目の内容と関連づけて考えるよう心がけてください。	
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)第4版 上・下巻 盲学校理療強化用図書編纂委員会	
参考書/参考資料	必要に応じて資料を配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	池田正道	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義・実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	リハビリテーションの理念と方法、各疾患のリハビリテーション、運動の仕組みについて学びます。	
到達目標	リハビリテーションの理念や方法などを理解することで、その考え方や方法を臨床に応用・実践することができるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	オリエンテーション	1
	1. リハビリテーション総説 (1)リハビリテーションと障害 (2)リハビリテーション医学と医療	11
	2. 障害の評価と治療 (1)障害の評価 (2)障害の治療	17
	※前期中間評価	1
	後期計 (15週)	後期計 30時間
3. 各疾患のリハビリテーション (1)脳卒中、(2)脊髄損傷、(3)脳性麻痺と小児疾患、(4)切断、(5)骨関節疾患、(6)末梢神経障害、(7)関節リウマチ、(8)パーキンソン病、(9)呼吸器疾患、(10)心疾患	23	
4. 運動の仕組みと身体の機能	6	
※後期中間評価	1	
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院での実務経験を活かし、実際に臨床現場で行われているリハビリテーションの内容について説明します。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします、(小数点第一位は切り捨て)	
履修上の留意点	前期・後期の中間期に形成的評価として中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	授業の進行に合わせて1・2年で学習した内容(解剖学や生理学など)を復習してください。そのことがリハビリテーションの理解を深め、また国家試験対策となります。	
使用教科書	生活と疾病 I A(概論編)、I B(基礎運動学編)	
参考書/参考資料		

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論(社会保障制度および職業倫理を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	伊達 徳昭	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障制度ならびに医療制度および職業倫理についての基礎的知識を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度について説明できる。 2. 医療制度について述べるができる。 3. 生命倫理および職業倫理について述べるができる。 	
	前期計 (15週)	前期計15時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 医学と医療 <ol style="list-style-type: none"> (1)現代の医学と医療 (2)社会保障制度 (3)現代の医学と医療の課題 	14
	後期計 (15週)	後期計15時間
	<ol style="list-style-type: none"> 3. 生命倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1)医の倫理(職業倫理) (2)ターミナルケア (3)自然死、尊厳死、安楽死 (4)臓器移植と脳死 (5)体外受精・人工妊娠中絶・胎児診断 	15
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期期末・後期期末にそれぞれ筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	社会保障制度および職業倫理に関する指導は1単位相当とします。	
自己学習の進め方	常日頃社会保障制度や医療制度に関心をもち関連する情報に触れるよう心がけましょう。	
使用教科書	医療と社会 改訂7版 岡山ライトハウス	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	森定真	
修得単位数	5単位	
年間授業時数	150時間	
授業の方法	講義	
授業内容 (授業科目の概要)	臨床で遭遇する代表的な疾患に対して症状および所見から病態を把握し、疾患の鑑別と効果的な治療方法について理解を深めます。	
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現す	
授業計画	前期計 (15週)	前期計75時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 治療論(総論、治療原則)	10
	3. 症候別治療(肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛)	20
	4. 症候別治療(顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛)	20
	5. スポーツ医学と理療施術	12
	6. 国試対策(演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む)	12
	7. 中間試験	
	8. 期末試験	
	後期計 (15週)	後期計75時間
	9. 症候別治療(悪心、便秘異常、月経異常、排尿障害、インポテンツ、高血圧症)	25
	10. 疾患別治療(低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹)	20
	11. 高齢者に対する理療施術	5
	12. 国試対策(演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む)	25
13. 中間試験		
14. 期末試験		
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期・後期とも、中間期と期末に試験を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とする。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)とする。	
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。そのため、講義後は必ず配布資料を精読して復習し、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、経絡経穴概論、東洋医学概論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。	
使用教科書	臨床理療学(理療臨床論)	
参考書/参考資料	東洋医学臨床論(はりきゅう編及びあま指編)	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床診察学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	森定真	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
授業内容 (授業科目の概要)	身体診察の目的と手順を理解し、各種検査法のスキルを習得することで、患者の病態の推定や障害の程度を的確に把握できるようになることを目的とする授業です。	
到達目標	学習した内容を施術に応用する能力と態度を養い、科学的根拠のある医療、サービスの提供を実現することを目標とします。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 検査総論	2
	3. 神経・筋・骨格系の機能検査 ア. 頸部の検査 イ. 肩の検査	5
4. 反復練習、復習	7	
5. 期末試験		
後期計 (15週)	後期計15時間	
6. 神経・筋・骨格系の機能検査	8	
ア. 上肢の検査 イ. 腰下肢の検査 ウ. 膝の検査		
7. 反復練習、復習	7	
8. 期末試験		
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期末、後期末に筆記試験と実技試験を行います。 各学期ごとの評価は筆記試験と実技試験を総合して算出します(評価割合:筆記試験30%、実技試験70%)。 学年末評価は、前期と後期の評価の平均とします。	
履修上の留意点	講義は教科書を基に資料を作成し、それを用いて講義を進めます。そのため、講義後は必ず配布資料を精読して復習し、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
自己学習の進め方	この科目は、徒手検査のスキルの習得に重点を置いています。そのため授業時間外に繰り返し学習することが必要となります。少なくとも週2回、1時間程度のトレーニングを行うようにして下さい。また、理療臨床医学各論、解剖学等の内容も含まれるため、次の講義までに関連する事項について確認しておいて下さい。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	はりきゅう 検査・治療学 南江堂	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学(生体観察を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	木村秀伯	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として、施術を適切かつ効果的におこなうための取穴法、選穴法及び配穴法について学習します。	
到達目標	1. 臨床に役立つツボの使い方を理解し、習得することができる。 2. 国家試験対策としても学ぶことができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 15時間
	1. 取穴法の基礎 (1)取穴姿勢、取穴方向 (2)切経と取穴技術の基礎	2
	2. 選穴法の基礎、配穴法の基礎 (1)選穴法の概要、(2)選穴法の原則、 (3)配穴法の概要、(4)配穴法の原則	1
	3. 要穴の概略 (1)各経の五要穴、五行穴について学ぶ	11
	復習と評価	1
	後期計 (15週)	後期計 15時間
	4. 各経の要穴の取穴 (1)十四経脈	7
	5. その他の要穴 (1)四総穴、(2)八総穴、(4)交会穴、(5)下合穴	2
6. 組み合わせ穴 (1)六ツ灸、(2)小児斜差の灸、(3)中風七穴、(4)脚気八処の穴	2	
7. 総合的取穴 (1)横並び穴の取穴、(2)局所別取穴	2	
8. 主要症候に対する取穴 (1)頭痛、(2)肩こり、(3)腰下肢痛、(4)腹部の症状、(5)神経痛と神経麻痺	1	
復習と評価	1	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末の平均点を学年末評価とします。(小数点第一位は切り捨て) 評価は前後期末試験にペーパー試験を実施します。	
履修上の留意点	取穴については生理観察にも重点を置き指導します。 確実、かつ素早い取穴ができるよう繰り返し指導します。 適切に臨床に応用できるように繰り返し指導します。 他の科目との関連に留意します。	
自己学習の進め方	既習の内容について、座学だけでなく、直接身体を触ることで記憶の定着をはかります。	
使用教科書	新版 経絡経穴概論(拡大版)	
参考書/参考資料	1. 理療基礎実習(全国盲学校長会編) 2. 東洋医学臨床論(東洋療法学校協会編)	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	地域理療と理療経営	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	小田剛	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	地域社会における理療の役割と施術所経営を中心に進路についての基礎的役割を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のキャリアビジョンと地域社会における理療の役割について述べるができる。 2. 施術所経営や医療保険制度について説明することができる。 3. 進路に関する情報を収集し、問題を解決することができる。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 開業 <ul style="list-style-type: none"> (1) 理療経営の基礎 (2) 個人による開業 (3) 規模の大きい施術所の経営 (4) 社会への貢献 	2 28
	後期計 (15週)	後期計30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 3. 施術に関する保険制度 <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療保険及び公費負担 (2) 施術に伴う損害賠償責任保険 4. 介護保険 <ul style="list-style-type: none"> (1) 介護保険の概要 (2) 介護保険給付の内容 (3) 地域包括ケアシステムと他職種連携 (4) ユマニチュード 	15 15
実務経験の有無 その活かし方	有 はり師、きゅう師 理療指導専門職としての知識と経験を生かして、具体的にわかりやすく教授し、進路に沿ったキャリア形成を支援します。	
成績評価の方法	理教教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末の年2回の総括的評価の平均点もって年間評価とします。(小数点以下は切り捨て)なお、中間期にはそれぞれの到達度を確認するための形成的評価を実施します。	
履修上の留意点	進路に沿った個々のキャリアビジョンを明確にする為と就活に繋げるため、随時求人票の情報提供や面接練習など行います。	
自己学習の進め方	普段から、あはき業界や時事問題について関心を持つように心掛けてください。	
使用教科書	「地域医療と理療経営(社会鍼灸あん摩学序説)第3版」	
参考書/参考資料	資料は必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	伊達 徳昭	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義(必要に応じ一部実技を含む)	
科目の概要 (授業科目の内容)	手技療法を行うにあたり必要な技術や理論、あん摩指の歴史等について学習します。	
到達目標	手技に関する理論を理解することでより効果的な施術ができる力を養うことを目標とします。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1. あん摩の意義と歴史	2
	2. あん摩の基本手技	8
	3. 古法あん摩	3
	4. マッサージの意義と歴史	2
	5. マッサージの基本手技	7
	6. 指圧の意義と歴史	2
	7. 指圧の基本手技	4
	8. その他の関連する治療法	2
	後期計 (15週)	後期計30時間
1. あん摩マッサージ指圧の臨床応用	5	
2. リスク管理	4	
3. 治療的作用と生体反応	4	
4. あん摩マッサージ指圧の基礎理論	10	
5. 関連学説	7	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	前期末・後期末にそれぞれ筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	中間試験期には形成的評価を行います。	
自己学習の進め方	予習・復習を確実にし、疑問点は次の授業で質問するよう習慣づけてください。	
使用教科書	基礎保健医療実(保健医療理論) 日本ライトハウス	
参考書/参考資料	なし	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	土志田 武	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	現代までつながる先人の知恵と科学的根拠を鑑み、現時点でおおよそ認知されている内容を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典医学書と先人の知恵について理解して説明できる。 2. 古代刺法と現行の鍼刺法、灸法について理解し実践できる。 3. 鍼灸治療におけるリスク管理を理解し実践できる。 4. 痛覚の教授と伝導を理解し説明できる。 5. 鍼灸刺激と生体反射について理解し説明できる。 6. 鍼鎮痛機構を理解し説明できる。 7. 鍼灸刺激と自律神経の反応を理解し説明できる。 8. 関連学説について理解し説明できる。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 30時間
	1. オリエンテーション	1
	はり理論 (1)用具 (2)術式 (3)特殊鍼法 (4)鍼治療偶発症 (5)リスクへの対応	16
	2. きゅう理論 (1)もぐさについて ①製作法、②成分、③種類、④良否の鑑別 (2)きゅう法 (3)リスク管理	13
	後期計 (15週)	後期計 30時間
	4. はりきゅう施術の臨床応用 (1)感受性と刺激量 (2)治療的応用 (3)適応疾患と禁忌疾患	10
5. はりきゅうの生体への作用機序 (1)刺激と伝導路 (2)内臓感覚機転 (3)脳との相互関係 (4)反射機転	15	
6. 関連学説 (1)サイバネティクス (2)ホメオスタシス (3)ストレス学説 (4)レイリー症候群 (5)圧発汗自律神経反射	5	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。また、随時評価を実施し知識レベルに応じた学習支援を行います。</p>	
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連語句の簡潔・明瞭化 2. 練習問題を通じた国家試験への対応力の向上 	
自己学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義開始時に前回の復習を行い知識の整理を行います。 2. 講義終了時に学習内容の整理を行います。 	
使用教科書	基礎理療学Ⅲ(オリエンス研究会編)	
参考書/参考資料	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本 第1版第19刷	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	木村秀伯 中西初男	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	外部の施術協力者に施術を行うことで実践に近い形で実習を行います。	
到達目標	施術所で即戦力となれるような知識、技術、コミュニケーションを習得する。 それぞれの進路にあった技術を習得する。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計 45時間
	(前期内容) 臨床実習 1. 利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 2. 施術内容を適切にカルテに記録する。	45
	後期計 (15週)	後期計 45時間
	(後期内容) 臨床実習 1. 利用者の習熟に合わせて、教官指導の下、再診の施術協力者の医療面接を実施することにより、病態の把握方法、治療計画について習得する。 2. 施術内容を適切にカルテに記録する。	45
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	観察記録を基に各学期の中間期、期末期に2人の教官で評価を行います。理療教育実施細則に基づき、前期・後期末評価の平均点を本科目の学年末評価とします。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣を清潔に保ちましょう。 リスク管理のためささいなことでも困りごとが発生したら担当教官、実習助手に協力を申し出て下さい。	
自己学習の進め方	事前にカルテを読み、患者の病態について把握しておいて下さい。 施術後の経過を確認し、施術効果について考察して下さい。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	今井 進 池田 正道	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	外部からの実習協力者への施術を通して、施術者として必要なあん摩マッサージ指圧施術の知識、技術を高めるとともに、適切なコミュニケーション能力を養い、安全で効果的な施術法を学びます。	
到達目標	1. 設備・備品の管理、清潔の保持できるようになる。 2. 他の科目で学習した知識、技術を活用し効果的な施術が出来る。 3. リスク管理が適切に行える。 4. 適切な施術録作成により実習のまとめができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	(前期内容) 臨床実習 1. 施術者としての基本 (ア) 施術者としての心得 (イ) 衛生管理 (ウ) リスク管理 (エ) 患者への対応 (オ) 診察の進め方 (カ) 適否判定 2. 設備や備品の管理と清潔の保持 3. 施術の実践 (ア) 診察、評価及び施術適否の判定 (イ) あん摩マッサージ指圧施術の実施 (ウ) 施術過誤の防止と対処 (エ) 正しいカルテの記入	30
	後期計 (15週)	後期計30時間
	(後期内容) 臨床実習 前期と同様の計画で進めます。	30
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 病院・治療院での施術経験を生かして、リスク管理のもと安全で効果的な、患者さんに合わせた施術ができるよう指導します。	
成績評価の方法	前期期末、後期期末の各期に、実習態度、施術に関する知識や技能、施術の記録などを考慮して総合的に総括的評価とします。なお、前期中間、後期中間に形成的評価を行います。	
履修上の留意点	授業は外来の臨床協力者を対象に2時間続きで進めます。施術者が実習生となることから、気づいた事象については担当教官に報告し、指示を受けて下さい。普段から自身の健康管理に留意して実習にあたって下さい。	
自己学習の進め方	普段から臨床医学各論や東洋医学臨床論などの教科書を活用して、疾病の概要、診察法、治療法の要点について調べるように心がけて下さい。	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう臨床実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	小田剛・森定真	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	<ol style="list-style-type: none"> 鍼灸実習では臨床実習協力者を被術者として、模擬的な鍼灸臨床実習を実施します。 臨床実習では症状・疾患の鑑別診断から鍼灸治療までの治療の実際について臨床実習協力者の診療現場に参加することを通して学習します。 現実的な臨床の場面を想定しつつ物理療法等も組合せ、より効果的な施術が行えるよう練習します。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 理療師として必要な基本的な心構えと態度(礼儀作法、言葉使い、身だしなみ、接遇態度など)を実践できること。 病態把握とそれに応じた鍼灸治療の実際を理解し、教官の指導の下で実施できること。 臨床実習室にある備品、消耗品の取り扱いについて理解し、教官の指導の下で実施できること。 臨床実習室にある各種医療機器の操作方法について使用上の注意も含めて理解し、教官の指導の下で適切に使用できること。 施術プランに決められた時間内に一定の効果を出すことができること。 臨床実習の内容をカルテとして作成できること。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	前期内容 臨床実習	45
	<ol style="list-style-type: none"> はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 実習の記録を適切にカルテに記録します。 	
	後期計 (15週)	後期計45時間
後期内容 臨床実習	<ol style="list-style-type: none"> はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 実習の記録を適切にカルテに記録します。 利用者からの希望と施術協力者の同意により継続治療を実施します。 	
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理教教育実施細則に基づき、態度・接遇・技術・知識・考察(カルテ記載)を加味し前期(期末)、後期(期末)の2回の総括的評価を行います。また前期・後期の中頃に各1度ずつ形成的評価も行います。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 理療師として必要な基本的態度や心得(守秘義務等)を守ります。 各種治療技術・物療器具・治療器具を的確に選定し、実践できるように心がけます。 衛生管理・リスク管理について常に心がけます。 授業で履修していない治療方法などは行わないでください。 授業時間数は、法定授業時間数以上になります。 	
自己学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 事前にカルテ等を読み、患者情報の把握と治療計画と想定してください。 経験した患者の病態について成書等で確認してください。 	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	「臨床実習マニュアル」「実習生心得」を配布します。	

令和4年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう臨床実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	上野博之 水沼健生	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍼灸実習では臨床実習協力者を被術者として、模擬的な鍼灸臨床実習を実施します。 2. 臨床実習では症状・疾患の鑑別診断から鍼灸治療までの治療の実際について臨床実習協力者の診療現場に参加することを通して学習します。 3. 現実的な臨床の場面を想定しつつ物理療法等も組合せ、より効果的な施術が行えるよう練習します。 	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療師として必要な基本的心構えと態度(礼儀作法、言葉使い、身だしなみ、接客態度など)を実践できること。 2. 病態把握とそれに応じた鍼灸治療の実際を理解し、教官の指導の下で実施できること。 3. 臨床実習室にある備品、消耗品の取り扱いについて理解し、教官の指導の下で実施できること。 4. 臨床実習室にある各種医療機器の操作方法について使用上の注意も含めて理解し、教官の指導の下で適切に使用できること。 5. 施術プランに決められた時間内に一定の効果を出すことができること。 6. 臨床実習の内容をカルテとして作成できること。 	
授業計画	前期計 (15週)	前期計45時間
	前期内容 臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 2. 実習の記録を適切にカルテに記録します。 	45
	後期計 (15週)	後期計45時間
	後期内容 臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. はり師きゅう師の実技指導の一環として、教官の指導の下、臨床実習協力者に対して診察手順、施術方法、待遇の仕方等を臨床経験に合わせて実施します。そのことで技術の習得と施術者としての心構えを養います。 2. 実習の記録を適切にカルテに記録します。 3. 利用者からの希望と施術協力者の同意により継続治療を実施します。 	45
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理教教育実施細則に基づき、態度・接客・技術・知識・考察(カルテ記載)を加味し前期(期末)、後期(期末)の2回の総括的評価を行います。また前期・後期の中頃に各1度ずつ形成的評価も行います。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療師として必要な基本的態度や心得(守秘義務等)を守ります。 2. 各種治療技術・物療器具・治療器具を的確に選定し、実践できるように心がけます。 3. 衛生管理・リスク管理について常に心がけます。 4. 授業で履修していない治療方法などは行わないでください。 5. 授業時間数は、法定授業時間数以上になります。 	
自己学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前にカルテ等を読み、患者情報の把握と治療計画と想定してください。 2. 経験した患者の病態について成書等で確認してください。 	
使用教科書	なし	
参考書/参考資料	「臨床実習マニュアル」「実習生心得」を配布します。	